

令和 4 年 5 月 16 日

**(その他)  
今後の電子カルテ情報等の標準化に向けた進め方について**

# 電子カルテシステムの普及状況とSS-MIXの導入状況の推移

出典：医療施設調査（厚生労働省）

	一般病院 (※1)	病床規模別			一般診療所 (※2)
		400床以上	200～399床	200床未満	
平成26年	34.2 % (2,542/7,426)	77.5 % (550/710)	50.9 % (682/1,340)	24.4 % (1,310/5,376)	35.0 % (35,178/100,461)
SS-MIX 導入状況	11.6 % (865/7,426)	33.4 % (237/710)	18.5 % (242/1,340)	7.2 % (386/5,376)	1.5 % (1,462/100,461)
平成 29年	46.7 % (3,432/7,353)	85.4 % (603/706)	64.9 % (864/1,332)	37.0 % (1,965/5,315)	41.6 % (42,167/101,471)
SS-MIX 導入状況	17.3 % (1,269/7,353)	47.9 % (338/706)	25.4 % (338/1,332)	11.2 % (593/5,315)	2.2 % (2,266/101,471)
令和 2年	57.2 % (4,109/7,179)	91.2 % (609/668)	74.8 % (928/1,241)	48.8 % (2,572/5,270)	49.9 % (51,199/102,612)
SS-MIX 導入状況	22.1 % (1,587/7,179)	59.4 % (397/668)	33.4 % (415/1,241)	14.7 % (775/5,270)	3.5 % (3,544/102,612)

## 【注 釈】

(※1) 一般病院とは、病院のうち、精神科病床のみを有する病院及び結核病床のみを有する病院を除いたものをいう。

(※2) 一般診療所とは、診療所のうち歯科医業のみを行う診療所を除いたものをいう。

# 今後の電子カルテ情報等の標準化の進め方

インターネット環境で広く浸透しているデータ交換方式（Web技術）と柔軟にデータ形式変換可能なフォーマットで構成されるHL7 FHIRでデータを交換する環境整備と、データに格納する標準コードの普及を図り、進めてはどうか。

## SS-MIX (SS-MIX 2)

- ・医療機関外とのネットワーク接続原則なし：オフライン
- ・データは、可搬メディア（CD/DVD）で、患者が運搬

- ・HL7 Ver.2.5形式のメッセージデータ  
（医療分野独自フォーマット：データ区切り“|”）を  
ファイルとしてフォルダ構成でストレージに格納し、  
可搬メディアに出力し、運搬

医療機関間での  
医療情報の共有

データの  
やりとり

## HL7 FHIR

- ・医療機関外とのネットワーク接続あり：オンライン
- ・データは、オンラインで、適時、送受信

- ・Web（HTTPプロトコル）で一般的に用いられる  
データ交換方式（REST通信+JSON形式）で、  
形式変換しやすいJSON/XMLフォーマットで送受信

